

創立以来最高益更新(営業利益21億円、経常利益20億円)
(過去の最高益は平成14年9月期で営業利益16億円、経常利益17億円)
安定的な収益構造の確立により29期配当を5円増配し15円とする。

株式会社 PLANT

1. 業績概要

	28期通期 (百万円)	29期通期 (百万円)	前年同期比 (%)
売上高	86,921	83,461	▲ 4.0
売上総利益	16,917	16,630	▲ 1.7
売上総利益率	19.5%	19.9%	+0.4P
営業利益	1,440	2,109	+46.5
経常利益	1,123	2,003	+78.3
当期純利益	619	1,081	+74.6

2. 要因分析

(1) 売上高

当期中新規出店はなく客数はほぼ横ばいだったが、デフレ下での商品単価が下げ止まらず消費マインドも依然厳しかったため売上点数が減少し、前年同期比4.0%の減少となった。

	売上高 (百万円)	前年同期比 (%)	客数 (%)	客単価 (%)	一人当たり買上点数	一品当たり商品単価
商品売上高	83,163	▲ 4.0	▲ 0.2	▲ 3.9	▲ 2.5	▲ 1.4
うち、スーパーセンター	80,938	▲ 3.8	0.5	▲ 4.2	▲ 2.8	▲ 1.4

(2) 粗利益率

粗利益率は前年同期比+0.4ポイント改善。売上高は▲4%となったが、粗利額は▲1.7%に止まる。従来より取り組んでいる「在庫管理」「値入向上とロスの削減」の徹底が昨年8月に導入した「生鮮管理システム」によって、生鮮作業によるロスの数値化が計られ作業工程の改善が進んだ。また、売場環境(天候・気温等による売上予測)に合わせ仕入にメリハリをつけることで適正在庫の管理を行ないロスの削減と在庫圧縮を図った。

(3) 営業利益

営業利益は販管費を前年同期比956百万円(▲6.2%)削減したことにより前年同期比669百万円増。主なものは人件費▲426百万円、減価償却費▲220百万円、リース料▲150百万円。販管費削減に大きく寄与したものは、平成20年に開店した3店舗(大熊・福知山・鏡野)が2年目となり店舗運営が定着してきたことにより3店舗の販管費は前年同期比312百万円減少した。人件費削減は店舗運営において人時生産性を意識した人時管理が定着したことによる作業効率の向上と、店舗改装による店舗オペレーションの効率化が寄与したため。

3. 業績予想

30期は創立30周年(創立記念日平成24年1月21日)を迎えることから、顧客・取引先・株主への感謝と還元のためのキャンペーンを行なって行く。

お客様の生活の拠り所として価格設定と商品構成の充実を図り安定した利益構造の確立を目指す。

店舗改装を30期上期に完了。店舗作業効率アップにより店舗オペレーションコストの尚一層の削減を図る。

	売上高	営業利益	対前期累計比	経常利益	対前期累計比	当期純利益	対前期累計比
第2四半期	百万円	百万円	%	百万円	%	百万円	%
累計期間	40,800	955	▲ 3.1	880	▲ 4.9	20	▲ 96.2
(資産除去債務による影響額)		(60)		(60)		(840)	
資産除去債務影響額除く		1,015	3.0	940	1.6		
通期	83,500	2,200	4.3	2,050	2.3	600	▲ 44.5
(資産除去債務による影響額)		(120)		(120)		(900)	
資産除去債務影響額除く		2,320	10.0	2,170	8.3		

第30期は、特殊要因として『資産除去に関する会計基準及び適用指針』の適用に伴う、営業経費(減価償却費等)の増加及び特別損失(資産除去債務)の計上を予定しております。

資産除去債務に係る影響額を除く各利益の前期比は営業利益10%増、経常利益8.3%増となります。

以上

